

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月7日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	① 教育活動の質的向上を図る。 ② 学力向上と進路実現に向けて、主体的に学ぶ意欲を高め、思考力・判断力・表現力を育成する。	①生徒が主体的・協働的に取り組む学習を行い、更なる授業改善を図る。 ②ICT 機器等の利用により、学習意欲を高めるとともに、自学自習の習慣を身に付けさせる。	①体験的な活動や他者と協働する活動を行う。 ②各教科において ICT 機器等を積極的に利用し、組織的な授業改善を図る。	①生徒が他者と協働して主体的に取り組むことができたか。 ②ICT 機器等を利用し、授業内容を工夫したか。	① 各教科で生徒が主体的に取り組める授業作りを工夫した。思考力、判断力、表現力の育成と授業の魅力的な導入をテーマにした授業改善研修を実施した。 ②電子黒板の導入により、ICT 機器を活用した授業が増加した。	① 主体的・協働的に取り組む授業作りをどのように基礎学力向上へ繋げるかが課題である。 ②ICT 機器の活用が活発になったが、生徒の端末を更に活かせるような授業作りが課題である。	① テーマを決めて授業改善研修会を実施し、各教科が学習意欲を高める授業内容を工夫し、授業改善に繋げた。教材研究や分かる授業づくりによる生徒に寄り添う指導が学習への主体性を高めた。 ②電子黒板の導入により利便性が改善され、ICT 機器の使用が活発になった。また、ICT 活用のための研修会を実施した。	①生徒による授業評価の結果からも、生徒の学習意欲は高められたと考えられる。基礎学力の更なる向上に向けてどのように組織的に取り組むのが課題である。 ②電子黒板の活用により、生徒の学習意欲の向上に役立てた。今後も組織的、計画的に活用を進め、研修会等も実施していきたい。	① 生徒が、主体的・協働的に取り組む学習を今後も推進し、課題解決能力を育む。授業改善研修会や公開研究授業等の企画運営を通して、指導力向上へ繋げる。 ②ICT 機器の更なる活用と生徒の端末を利用した授業作りを組織的に行う。また、職員向け研修会を実施する。
2	生徒指導・支援	① 規範意識や基本的生活習慣の定着を図る。 ② 個に応じた教育相談体制を充実させ、SC・SSWと連携し、課題解決に向けて取り組むことができる人材の育成を図る。 ③部活動や委員会活動、学校行事に主体的に参加し、他者と協力しながら魅力ある学校生活の創造を図る。	① 「一人は一校を代表する」を推進し、社会性が身に付く教育を行う。 ② 学校内の連絡を密にし、教育相談が必要と思われる生徒に対して、SC・SSWと連携し手厚い指導を行う。 ③1年生の部活動加入を推進する。委員会活動を活性化する。	① 日頃より、身だしなみ指導や登校指導を通しての規範意識向上に努め、特別指導の件数を抑える。 ② かながわ子どもサポートドック等を活用し、生徒情報の共有を密にし、SC・SSWと連携し生徒の学校生活をサポートする。 ③ 部活動の活動結果等を在校生にも広く発信する。委員会活動内容を精査し、活動の頻度を上げる。	① 特別指導の件数を昨年度より減らすことができたか。 ② 教育相談が必要とされる生徒に対して、効果的な支援ができたか。 ③ 部活動加入率だけでなく、実加入者の割合との比較において開きはどうか。一斉委員会で立てた目標が達成できたか。	① 特別指導の件数を減らすことができなかったが、指導を重ね、一定の効果は上がった。 ② かながわ子どもサポートドック等を活用し、SC・SSWと連携ができた。教育相談が必要とされる生徒に対して、効果的な支援ができた。 ③部活動の活動結果を広報する手段の検討に時間がかかり、実行に至らなかった。委員会活動の内容について、改善に向けて動き出すことができた。	① 特別指導の増加傾向を止めることができなかった。身だしなみ指導や警察による非行防止教室を行い、未然防止を行う。 ② かながわ子どもサポートドックを行う時期や面談期間の日程などについて検討する必要がある。 ③ホームページより効率的に発信できるソーシャルメディアの利用ができるように検討する。	① 引き続き、生徒一人ひとりに向き合うと共に、保護者の心情にも配慮する指導を行ってほしい。 ② 日常の授業や学校行事における指導、SC・SSWの活用等、様々な要素を活かして多様な対応を模索し、個々の生徒の成長をサポートした。 ③学校の魅力を広く理解してもらうために、対外広報を強化してほしい。	① 警察による非行防止教室を行ったことで、SNSのトラブルが減少した。課題としては12月に開催したので時期を検討する必要がある。 ② SC・SSWとのスクリーニング会議により情報を共有することができた。SC・SSWの勤務形態を踏まえ協働する時間をどのように捻出していくかが課題である。 ③部活動は活発に行われているが、特に文化部は生徒の選択肢が少ないので増やしたい。	① 身だしなみ指導や警察による非行防止教室を行い、規範意識向上に努め未然防止を行う。 ② アンケート結果に基づいた面談に時間的余裕を持たせ、スクリーニング会議の充実に繋げる。 ③各部の顧問数減員を検討し、新部活動設立に繋げる。
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの進路希望に応じたきめ細やかなキャリア教育の実践を図る。	① 多様な進路希望に対応するため、年間を見通した指導計画の再構築を実践する。	① ガイダンスや模試等の見直しを図り、ニーズに応じた在り方を実践する。	① 小論文講演会の活用により、小論文模試の意義を高め、年3回実施される模試の充実を図ることができたか。	① 本年度より模擬試験および小論文模試の計画を生徒の実態に合わせ、抜本的に見直した。また、総合型選抜	① 生徒の進路に対するモチベーションの低下と、進路決定後の指導に苦慮している。早い段階での	① 模試・小論文指導を含め、3年間を見通した進路指導計画の見通しが明確になった。また、ガイダンス等の充実を図	① 学力選抜以外のニーズが高まる中、模試の抜本的改定は大きな転換点となった。一方で生徒のモチベーショ	①小論文模試等は生徒のモチベーションを考慮し実態に見合った内容とする。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月7日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		②地域連携を通して、地域に求められる人材育成を図る。	②地域の特性を踏まえ、人的・物的資源を活用した人材育成を図る。	②企業や職業安定所、その他の外部機関との連携を強化し、生徒の就職指導を充実させる。	②地元企業との関係性を深め、生徒に的確な進路情報を提供することができたか。特に就職希望者は内定率が100%であったか。	対策講座や就職対策講座を開講し生徒のニーズに合わせた。 ②地域の特性を踏まえた進路指導の実現を目指した。就職内定率も100%を維持することができた。	意識醸成が必要である。 ②地元企業との関係性を深める機会の見直しを図る。各分野に特化したガイダンスの実施を検討する。	り、生徒の実態に合った講座が充実した。	ンの低下が著しく、今後の指導に課題がある。 ②売り手市場が強まる中、生徒の就職意識醸成が課題となっている。	また、講座等の充実を図り生徒の進路意識向上を図る。 ②企業と接触する機会を確保し、早期の意識醸成を図る。
4	地域等との協働	①地域と連携、協働した学習環境の確立及び発展を図る。	①地域協働学習実施支援員やコンソーシアムの活用による学習の充実を図る。	①「総合的な探究の時間（未来探究）」を中心とした学習において、地域人材や地域企業との協働学習を展開する。	①地域人材や地域企業と連携協働し、協力団体の活用を10回以上行えたか。	①山北町へのインタビュー、地域企業への訪問など、「学校外の大人」との協働を行うことができた。	①授業時間を有効に運用することで、さらに活動の多様化に努める。	①テーマを6つに分けることにより、生徒の人数が分配され、小回りの利く活動が増えた。生徒の興味や関心が高い分野での活動をより多くしていくと共に、町とのコラボレーションによる取り組みの検証や見直しを深めてほしい。	①地域の方に協働していただいた成果が、発表会の内容に表れている。今後も取り組みを継続すると共に工夫を加えていく。	①学校と地域、双方にとって前向きな活動になるよう、連携を続けていく。
		②地域貢献に資する人材を育成する。	②学校行事や地域行事、各教科等における地域と協働した学習を推進する。	②地域と学校の交流を積極的に行う。また、発表活動などを通して、他校種における生徒、児童及び教員との交流を推進する。	②行事や教科等において、地域と学校間の人材交流が推進されたか。	②探究発表会だけでなく、文化祭や夏季休業中のお祭り等で、多くの地域の方と協働することができた。	②今後も、今年度の活動を継続していく。	②校外で活動する際の指導を徹底する。	②教員間のコミュニケーションを密にし、他分野の内容を取り入れるようにする。	②他者との協働的な活動が、多くの学びに繋がることを理解させる。
5	学校管理 学校運営	①働き方改革の視点を重視し、教員のワークライフバランスの推進を図る。	①企画会議において、働き方改革を進めるため、業務改善を図る案を検討する。	①各学年より、意見・企画を持ち寄り、企画会議で検討していく。	①働き方改革についての話し合いと、企画の検討ができたか。	①働き方改革として、欠席連絡システムの導入や職員会議のペーパーレス化に係る意見集約を学年会議で行い、全職員で共有の上、実行することができた。	①欠席連絡システムや職員会議のペーパーレス化は働き方改革に繋がった実感がある。新たな課題が生じた際に対応を検討する。	①新たな取り組みに挑戦し、働き方が改善できている。働き方改善のための情報収集を欠かさず、今後も積極的に取り組んでいきたい。	①新たな取り組みを実践し、事務的な仕事の軽減として、成果を実感できている。変化への不安を払拭することが課題である。	①新たな取り組みによる変化への不安を払拭する策として丁寧な説明とその準備が必要となるため、業務改善のプロジェクトチームなどがあると、取り組みが促進される。
		②ハード面・ソフト面の両面において、職場の環境改善を図る。	②業務アシスタントが2名体制となったため、業務の割り当てを検討する。	②グループから業務アシスタントに依頼する内容を一覧としてまとめる。	②業務アシスタントの業務を整理し、一覧表が作成できたか。	②業務アシスタントの業務を整理したが、細かく一覧で表すことは控えた。	②業務アシスタントの業務の整理した業務分担で課題が生じた際に改善を検討していく。	②業務アシスタントの業務が分野ごとに整理された。それ以外の細かな業務に関してどのように整理するかは検討中である。	②業務アシスタントにより、教員の業務は軽減できている。業務アシスタントが仕事へのやりがいを感じているかが課題と感じる。	②業務の遂行状況を確認する場を設け、業務アシスタントから業務への不満等がないか、聞き取る体制を作る。